

令和2年度卒業生採用に関するアンケート調査結果

学生生活支援委員会（就職支援WG）

I. 調査時期, 対象施設, 回収結果

調査時期：令和3年1月

調査対象施設：令和2年度に採用された施設

	調査対象施設		回収数		回収率	
	施設数	件数	施設数	件数	施設ベース	件ベース
看護科	50	73	28	52	56%	71%
医療介護福祉科	8		7		88%	

※看護科では1施設あたり複数部署に送る場合があるため、送付件数並びに回収件数でも表示している。

II. アンケート結果および分析

1 施設基本事項

1) 地方・都府県別

地方	都府県	看護科		医療介護福祉科		
		地方別	都府県別	地方別	都府県別	
関東地方	東京都	1	1			
中部地方	静岡県	1	1			
近畿地方	京都府	5	1			
	兵庫県		4			
中国地方	岡山県	39	34	6	6	
	広島県		4			
	島根県		1			
四国地方	香川県	4	2	1	1	
	愛媛県		1			
	高知県		1			
九州地方	福岡県	2	1			
	長崎県		1			

2 調査項目

A 採用について

1) 組織で職務遂行上、重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	項目	看護科	医療介護福祉科
①	主体性	4.5	4.4
②	他人に働きかける力	4.3	4.1
③	実行力	4.3	4.3
④	課題発見力	4.1	4.0
⑤	計画力	4.0	4.0
⑥	創造力	3.9	3.9
⑦	発信力	4.1	3.7
⑧	傾聴力	4.5	4.7
⑨	柔軟性	4.3	4.4
⑩	状況把握力	4.4	4.3
⑪	規律性	4.5	4.4
⑫	ストレスコントロール力	4.3	4.3

未回答：看護科 4

その他重視している事項（自由記述）

看護科：看護専門職として学び続ける力、協調性

【分析】

採用側が職務を遂行する上で重視する能力として、両学科とも、すべての項目が高い値を示していた。特に、「主体性」「傾聴力」「規律性」が4.4～4.7と高かった。採用側は、相手の言葉を傾聴し、規律を守って主体的に職務を遂行する人材を望んでいるのではないかと考えられる。次いで、看護科では「状況把握力」、医療介護福祉科では「柔軟性」が重視されている。

2) 採用時に重視する能力

それぞれの項目について、5段階（5：重視している、4：やや重視している、3：どちらともいえない、2：あまり重視していない、1：重視していない）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	4.2	4.0
②	専門知識・技術	3.7	3.3
③	職務遂行能力(意欲, 段取り力, 実行力)	4.3	4.2
④	倫理観	4.5	4.8
⑤	社会性(公共心, 誠実性, 責任感)	4.8	4.8
⑥	コミュニケーション能力	4.8	4.5
⑦	対人関係・仕事の協調性	4.6	4.7
⑧	基本的マナー	4.6	4.5
⑨	課題解決能力	4.0	3.8

未回答：看護科 4

その他重視している事項（自由記述）

看護科：自己アピール力、ストレス発散の方法

【分析】

両学科とも、「倫理観」「社会性」「コミュニケーション能力」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」が4.5～4.8と高かった。「基礎学力」「専門知識・技術」「課題解決能力」を有していること以上に、倫理観を持ってマナーを守り、周囲と十分なコミュニケーションをとりながら協調して職務を遂行する人材が望まれているものと推察され、「質問1）組織で職務遂行上、重視する能力」の回答と重なっていた。

3) 面接時に注意してみる態度

当てはまるものを全て選ぶ質問。両学科とも、学科ごとの総回答数（回収数から未回答数を引いたもの）に対する%で示した。

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	入退出時の挨拶	61%	83%
b	服装・身なり・髪型	80%	100%
c	顔の表情	83%	83%
d	話し方・言葉遣い	87%	100%
e	声の大きさやトーン	52%	67%
f	話を聞くとときの姿勢	83%	83%
g	話しているときの姿勢	70%	67%
h	目線の方向や動き	67%	100%

総回答数

看護科：回収数 52, 未回答 6, 総回答数 46

医療介護福祉科：回収数 7, 未回答 1, 総回答数 6

【分析】

両学科とも、80%以上の施設において、「服装・身なり・髪型」「顔の表情」「話し方・言葉遣い」「話を聞くとときの姿勢」が挙げられた。看護科では、これに次いで、「話しているときの姿勢」「目線の方向や動き」を挙げる施設が多く、医療介護福祉学科では、「目線の方向や動き」「入退出時の挨拶」を多くの施設が挙げていた。面接においては、身だしなみや表情・姿勢、話し方など、社会人としての基本を身につけておくことが重要になると思われる。とりわけ医療介護福祉科では、このような非言語コミュニケーションが非常に重視されている。

B 採用した本学の卒業生について

1) 本学卒業生の印象

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	項 目	看護科	医療介護福祉科
①	基礎学力	3.2	3.8
②	専門知識・技術	3.0	3.7
③	職務遂行能力（意欲，段取り力，実行力）	3.2	3.7
④	倫理観	3.2	3.7
⑤	社会性（公共心，誠実性，責任感）	3.3	4.2
⑥	コミュニケーション能力	3.1	3.7
⑦	対人関係・仕事の協調性	3.3	3.8
⑧	基本的マナー	3.3	3.8
⑨	課題解決能力	2.9	3.3
⑩	注意や指導を受けた後の対応力	3.1	3.5

未回答：看護科 5，医療介護福祉科 1

その他の印象（自由記述）

看護科：礼儀正しく落ち着きがある，言葉遣いがとても丁寧，素直でとても姿勢はよい，周囲と協調しながら仕事をしている(2)。レポートに誤字が多く読み返して提出するという習慣が不足している，体調のコントロールが苦手，仕事が忙しくなると患者への対応が雑になることがある。自分で処理しようとして苦しくなる。

2) 本学看護科卒業生が身に付けている能力

それぞれの項目について、5段階（5：優れている、4：やや優れている、3：普通、2：やや劣る、1：劣る）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

項目	平均
1 看護師に必要な知識とともに，専門職者としての基本姿勢と態度を備えている。	3.1
2 根拠に基づいた看護を提供できる実践能力を修得している。	2.9
3 看護専門職者としての誇りを持ち，研修・研さんを行う意欲と能力を身につけている。	3.1

未回答 6

【1)2)の分析】

医療介護福祉科では、「問題解決能力」の3.3以外，すべての項目が3.5以上であり，とりわけ「社会性」が4.2と高かった。基礎学力並びに専門知識・技術を有し，マナーを守って，責任感と倫理観を持って周囲と協調しながら誠実かつ適切に仕事をしているという印象を持たれていることが伺える。看護科では，全体的に評価が高いとは言えなかったが，最も高い評価点が得られたのは，「社会性」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」の3.3であった。「専門知識・技術」は採用時に重視する項目として他の項目に比べて低かったが，調査時における本学の卒業生の印象は普通程度の評価である。評価が低かったのは，「課題解決能力」と2)の2「根拠に基づいた看護を提供できる実践力」の2.9である。学生に自分で考えて行動する能力を身に付けさせていくことが課題である。

3) 本学卒業生の傾向

①他校出身者と比較して優れている部分（自由記述；カッコ内は件数）

看護科 (26) :

自分の意見をしっかりと伝えられる，仕事とプライベートを分けて考えることができる，ストレスをためない，笑顔，意欲(2)，明るい，コミュニケーション能力(2)，真面目(2)，素直(4)，社会人基礎力，柔軟性(2)，学習が好き・できている(2)，協調性がある，精神力が強い，病態生理や解剖の理解が深い，学生に丁寧に指導できモデルナースとして多くの学生から名前が挙がった，技術の習得が早い，スピード感をもって業務を行っている，不明な点は必ず確認して行う，個人差が大きい・個人の問題である(4)，卒業生が少ないため比較が困難，出身校別に比較したことはない，他校出身者がいないため比較できない，特に感じるものはない

医療介護福祉科 (5) :

協調性，知識・技術及び社会性，他校出身者がいないため評価できない(3)

②他校出身者と比較して劣っている部分（自由記述；カッコ内は件数）

看護科 (18) :

コミュニケーション能力(4)，自己の振り返り，すぐにやめると言う，自主性・主体性(2)，習得するのに時間を要する，責任感(2)，基礎学力，専門知識，疾患への理解，勉強面・学ぶ姿勢(2)，意欲，実行力，社会人としての自覚，就職先として選んだ当院の情報収集，自分の考えを言語化できない，緊張感，柔軟性の低さ，倫理観，卒業生の在籍が少ないため比較が困難，個人の問題(2)，特に劣るとは感じない(3)，他校出身者はいない

医療介護福祉科 (3) :

基本的にあまり感じないが主体性に少し欠ける，他校出身者がいないため評価できない(2)

③過去の卒業生と比較して変わったと感じる部分（自由記述；カッコ内は件数）

看護科 (15) :

判断力は低下していると思う，自己解決できる部分は自分でしょうという姿勢が見られない，意欲（向上心）(2)，協働する力，創造力，さばさばしている，真面目に取り組むがもう少し気持ちに余裕があるとよい，前年度の卒業生に比べて落ち着いた感じ，あいまいにせず解決しようとする姿勢，自主性に乏しい，受け身である，患者に寄り添う気持ち，卒業生の在籍が少ないため比較が困難，対象者がいないため比較できない(3)，個人により違う，変わったと感じるところはない

医療介護福祉科 (3) :

特に変わったと感じることはない(1)，対象者がいないため比較できない(2)

4) 本学卒業生を採用したことの総合的満足度

5段階（5：満足，4：やや満足，3：どちらとも言えない，2：やや不満，1：不満）の中から当てはまる数字を選択する質問。平均値を示した。

	看護科	医療介護福祉科
本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度	4.0	4.8

5) 採用した学生について気づいた点（自由記述；カッコ内は件数）

看護科 (20) :

- ・素直でとてもいい学生だと思う。実践では何度も繰り返し関わり学習することで覚えている。
- ・技術面での習得がやや遅れている。意欲や研修での学びを実践につなげようとする姿勢が不足している。
- ・学力に問題がなければ学生時代には分からないと思うが，就職してから出会う複合的な事情が重なった場合の対応が難しい人がある。
- ・先輩からの指導を素直に受けとめ，知識技術の向上ができています。
- ・ゆっくりではあるが，周りからの意見を聞き，自分で考えて看護ケアを一つひとつ習得できている。物事を前向きに考えることができ，積極的に取り組んでいる。
- ・意欲は感じられるが，行動までには至ってないところがある。
- ・職務遂行上のできない部分を自己解決できないまま，周囲に相談ができずに一人で抱え込んでいた。相談する際にも，自己の考えや意志を伝えることができなかった。

- ・元気に出勤している。配属部署で日々実践をしている。
- ・看護師としての目標や看護師としての成長意欲があまり明確でない。
- ・優れた能力を持っている。しかし、諦めやすい傾向があり能力の幅を広げられないことが残念である。向上心を刺激できる環境をつくっていきたい。
- ・真面目で学力はあるが、実践力や問題解決力につながっていない。もう少しコミュニケーションを取ることができれば、考えを導き出すことができると思う。
- ・実習で当院を経験していたため、病院の雰囲気にかかなり慣れており、チームに溶け込みやすい。
- ・言葉遣いが友達感覚であり、敬語が少ない。
- ・一つひとつの業務を丁寧に行い、不明な点は必ず確認してから行っている。
- ・おとなしい。
- ・個々人で違う。

医療介護福祉科 (6) :

- ・真面目に業務遂行している(3)。
- ・得手不得手はそれぞれあると思うが、先輩に質問して一生懸命課題に取り組んでいる(2)。
- ・言葉遣いや年長者(利用者・職員)への適切な配慮ができるようになると望ましい。
- ・良い卒業生が採用され、ありがたく思う(2)。
- ・年数を重ねる毎に成長している姿があり、うれしく思う。

【3)4)5)の分析】

本学の卒業生を採用したことに対する総合的満足度は、医療介護福祉科では4.8と非常に高く、看護科も4.0と比較的高かった。卒業生の傾向の指摘には、本学の指導に対する良い評価につながるものが多かったが、厳しい指摘もあった。また、看護科の記述から個人差がかなりあり(波線部のように、同じ内容が「優れている」と「劣っている」の両方に書かれている)、全体的な評価を下げていることがわかる。さらに、意欲があっても仕事に結びつかない、素直で真面目だが実践力が乏しいといった指摘が見られた。学生の資質を生かし、臨床現場に適応できる人材に育てていくことが今後の課題であると思われる。

6) 本学学生に充実を求める能力(上位3項目の選択)

学科ごとの総回答数(回収数から未回答数を引いたもの)に対する%で示した。

	項 目	看護科	医療介護福祉科
a	基本的マナー	66%	33%
b	コミュニケーション能力	76%	67%
c	対人関係調整力	60%	50%
d	幅広い教養と基礎学力	20%	33%
e	深い専門的知識・技能	12%	17%
f	文章読解・表現能力	18%	0%
g	リーダーシップ	14%	33%
h	課題解決能力	36%	50%
i	プレゼンテーション能力	4%	0%
j	マネジメント能力	10%	0%
k	コンピュータ活用能力	4%	0%
l	指導能力	2%	17%
m	外国語の能力	0%	0%
n	国際的視野	0%	0%

総回答数

看護科： 回収数 52, 未回答 2, 総回答数 50

医療介護福祉科：回収数 7, 未回答 1, 総回答数 6

その他充実が必要な事柄(自由記述;カッコ内は件数)

看護科 (5) :

- ・医療スタッフの一人として必要とされる体調やメンタルの調整の考え方
- ・セルフコントロール能力(ストレスコントロール能力)
- ・倫理的配慮
- ・研究意欲

- ・今後、高齢化する社会環境の中で看護師の役割も増えてくる。特に在宅生活がどのようなことなのかイメージできる学習環境も必要だと思う。

医療介護福祉科 (3) :

- ・高齢者の理解（時代背景、人生観を理解できる教養）人間観、死生観を養っておく、対人援助職の理解
- ・今後は病院の実習も始まるのでよいと思うが、施設と病院の言葉の違いや利用者と患者の違いを充実していただければありがたい。
- ・今後、社会で働く医療介護福祉士は在宅介護についても活躍することも多くなると思われる。今のカリキュラムがどうなっているのか不明だが、そのような知識・技術を得るためにも、病院で働く介護福祉士がたくさん卒業できるとよいと思う。

7) 本学に対する意見、希望

看護科 (8) :

- ・基礎学力の充実と、それを実践につなげるためのトレーニングをお願いしたい。
- ・コミュニケーション能力は高く、自ら率先して言葉を発することもできているが、時に学生気分が抜け切れていないところもある。日々、一生懸命業務を遂行できている。仕事に対する社会人としての責任感が不足しているため、責任をもって仕事ができるよう指導している。
- ・御校のみならず、頼ることしかできない、自分の意思を伝えることができない学生が急増している。相談内容について、「どうすれば良いと思う？」と逆に尋ねても、何も回答ができない。専門職である以上、自分の考えを発信しながら方針に合わせた行動をとるにはどうすればよいかを考える力を育ててほしい。
- ・コロナ禍のために学校も病院も大変な時期であるが、後輩育成にこれからも連携をよろしく願う。
- ・実習病棟では学生と関わることで、ナース自身が日頃の看護を振り返る良い機会となっている。
- ・実習中に改善できる点、倫理感、人間関係（対人）調整力等は学生にしっかり話し、自覚してもらっている。問題なくスムーズに学生生活を送った人ほど就職して苦労しているように感じる。自分のできない部分もしっかり受け入れる力をつけてもらいたい。
- ・知識や技術は就職後に修得していただければよいが、看護観が豊かで意欲のある人材の育成を今後もよろしく願う。
- ・学ぶ姿勢がとても身につけている。もう少し活気があっても良いと思う部分があるが、成長して自信がつくと改善するのではないかと考える。技術に関しては経験が必要であるが、専門的知識も経験とともに身につけていると思う。

医療介護福祉科 (2) :

- ・御校の卒業生は2人働いているが、2人とも真面目に利用者に対してしっかり対応してくれている。
- ・最近の若者の特徴なのかもしれないが、自己評価が高すぎて学ぶ機会を失うことがあるのではないかと危惧する。他者への人としての尊敬の念や、尊厳とはどういうことか種々の機会に様々な経験を積んでいただきたい。

【(6)7)の分析】

本学の学生に充実を求める能力として、両学科とも「コミュニケーション能力」が最も多く選択され、「対人関係調整力」がそれに次いだ。さらに、看護科では「基本的マナー」「課題解決力」、医療介護福祉科では「課題解決能力」を充実させることが求められている。「1)本学卒業生の印象」(看護科)、「5)採用した学生について気づいた点」(自由記述)でも、コミュニケーションを図ることで得られる実践力や応用力、課題解決能力の不足と、言葉遣いの問題点が指摘されていた。ビジネスシーンにも通用する思考力とコミュニケーション能力、働く場所に合った思考力とコミュニケーション能力の涵養が必要となる。また、多様化する看護師と介護福祉士の業務に対応できるよう、本学の教育体制を充実させるとともに、個々の学生に対してもセルフコントロール力を身に付けることが求められている。

今後の課題

1 学科の課題と対策

1) 看護科

就職先が学生の採用にあたって重視する点は、社会性、コミュニケーション能力、対人関係・仕事の協調性、基本的マナーが上位であった。「他校出身者と比べて劣っていると感じる部分」の自由記述回答に、「コミュニケーション能力」「自分の考えを言語化できない」「今発信してもよいかの判断力の低下」などの意見があることも踏まえ、対人関係やコミュニケーション能力を向上させるよう指導を強化する必要がある。

学生満足度調査では、「対人関係能力を身につけることができた」という項目で9割以上の学生が「そう思う・概ねそう思う」と回答していたにもかかわらず、採用先の本学卒業生に対する評価には厳しいものがあつた。自らを過大評価する学生もいるため、学生自身が自己を客観的に俯瞰して見ることができるような支援が必要である。看護科の実習では、ポートフォリオを導入し、各領域終了後に学生には自らの振り返りをする機会を提供している。それらを活用しながら、自らを客観的に見つめ、自己の課題解決につながるような支援を行っていきたい。

2) 医療介護福祉科

学生を採用する際、病院や施設が職務遂行上重視している能力として、傾聴力、主体性、柔軟性、規律性が上位に上がっており、特に傾聴力が高かった。介護の現場には、認知症がある利用者や症状の急変で可能な動作が制限される患者もいる。このような利用者や患者の言葉に耳を傾け、想いに寄り添う介護が重視されていることが、このような結果の背景にあると考えられる。また、採用時に重視する能力としては、倫理観、社会性（公共性、誠実性、責任感）が上位に上がり、続いて対人関係・仕事の協調性も重視されていた。講義や実習を通して学生のこれらの能力が育つよう支援していく必要がある。

面接時に注意する態度として、回答のあつたすべての施設で服装・身なり・髪型、話し方・言葉遣い、目線の方向や動きが挙げられていた。対人援助職者にとって基本的な態度を身につけておくことが、面接の段階から求められているものと考えられる。これを踏まえ、実習前の指導だけでなく、日常の学生生活においても、正しい言葉遣いや挨拶など意識せずとも行えるような指導を継続していく必要がある。

採用した本学の卒業生に対する印象の中では、課題解決能力、注意や指導を受けた後の対応力が前回調査と同様に低い評価となった。多職種が連携することが必要となる介護や医療の現場では、自ら課題を解決し、また、様々な職種の人や利用者、患者からの意見に適切に対応しなければならない。実習を通して、主体的に行動できるようサポートするとともに、卒業生に対しても卒後教育を充実していくことが課題である。

本学卒業生を採用したことに対する総合的満足度は4.8であった。採用した学生について気づいた点を自由記述で書いた回答からも、本学卒業生に対する評価は高いことから、本学科の教育も評価されているものと考えられる。今後とも、個々の学生の長所を伸ばしつつ、今回指摘された点を解決できるよう教育と学生支援に努めたい。

2 大学としての課題と対策

令和2年度の卒業生を採用していただいた施設にアンケートを実施した。その結果、総合的満足度（1～5段階評価）は看護科 4.0、医療介護福祉科 4.8 と、おおむね満足しているという評価であった。また、昨年度までは「本学に対する意見、希望」に、能力に適さない就職をした学生がいることが指摘されていた。今年度の調査では、そのような記述がなかったことから、就職先の選定など細やかな指導が進められたことが伺える。

大学として、以下の4点を改善に取り組むべき課題と考えて、大学と学科で連携を取りながら改善に努めたい。

1. 「採用時に重視する能力」と「本学学生に充実を求める能力」を比較すると、前回調査に引き続き、いずれも「基本的マナー」「コミュニケーション能力」「対人関係調整力」などが高い値となり、これらの能力が必要とされていることが示された。「本学卒業生の印象」、他校出身者と比較した「本学卒業生の傾向」、「採用した学生について気づいた点」でも、職務遂行上必要なコミュニケーション能力の低下を指摘する意見があった。対人援助職者として当然身につけておくべき能力が、前回調査と同様、就職先の期待よりもやや低かったことが伺える。このことから、これまで以上に、全学的な講座の内容を充実させるとともに、講義や実習、H.R.、個別指導の中での取り組みが大切になる。入学時から将来を意識させ、学びと社会性に対する動機づけを図るとともに、自身の看護観や介護観を考えさせていく必要がある。また、採用側が求める能力の内容と、学生が考える内容にズレはないかを確認する必要もある。

2. 「職務遂行上の能力」として、両学科に共通して、「傾聴力」「主体性」「状況判断力」「規律性」「柔軟性」が重視されていた。自由記述の中には、「専門職として学び続ける力」という意見があった。本学の卒業生の傾向として、意欲と行動とが結びついていないという指摘もあった。周囲の意見を聴き、規律を守り、状況を判断しながら主体的に医療福祉に取り組める能力を学生時代から育てられるよう、指導に取り組みたい。

3. 「面接時に注意してみる態度」として、両学科に共通して、「服装・身なり・髪型」「話し方・言葉遣い」が特に重視されており、これに次いで「顔の表情」「話を聞くときの姿勢」なども重視されていた。就職支援講座を通じて基本的な就職活動のマナーを身につけさせるとともに、学んだことを個々の学生が自信を持って実践できるよう、学科での個別指導を充実させていく必要がある。

4. 「採用時に重視する能力」と「本学卒業生の印象」については、同じ項目で評価していただくことで、採用側の期待と卒業生の実際の能力との食い違いについて検討することが可能である。看護科では、この食い違いが最も大きかったのが「コミュニケーション能力」であり、採用時の期待ほどの能力を発揮していない可能性が示唆された。次いで「社会性」「倫理観」「対人関係・仕事の協調性」「基本的マナー」であった。医療介護福祉科では、「倫理観」が最も食い違いが大きかった。倫理観については、患者や利用者の尊厳を守る医療福祉人にとって、特に高い能力が必要とされているものである。今後、これらの点を意識した就職指導、個別指導が必要である。